

報道関係各位

2019年4月15日

モリタテクノス

**国内フェリー初となる消防用 可搬式 CAFS ユニット納入・運用スタート
～船舶火災への安全対策強化に～**

株式会社モリタホールディングス

当社の連結子会社である株式会社モリタテクノス（本社：兵庫、代表取締役社長：中川 茂）は、消防用の可搬式 CAFS ユニット「18 UnitCAFS」（いちはちユニットキャフス）を、商船三井フェリー株式会社（本社：東京、代表取締役社長：大江 明生）様に納入しました。国内フェリー初の CAFS ユニット導入となり、同社が大洗～北海道間で運航するフェリー4隻に導入され、4月15日（月）より運用がスタートしました。

CAFS（圧縮空気泡消火装置）とは、水に少量の薬剤を加え、そこへ圧縮空気を送り込むことにより発泡させる装置で、水の表面積を広げることで効率よく消火することができるシステムです。消防車のオーバーホールやアフターサービス等を行うモリタテクノスでは、エンジン一体型の可搬式 CAFS ユニット「18 UnitCAFS」の開発・製造・販売も手掛けており、これまで大型水槽車や小型トラックなどに搭載し国内外に納入してまいりました。



商船三井フェリー株式会社様においては、船舶火災への安全対策強化にあたり、CAFS の消火能力に加え、乗組員の方々による実践的な消火訓練を通じて運用面においても有用性が期待できるとの評価をいただき、導入・運用スタートに至りました。

■船舶火災における CAFS 有用性について

モリタグループは、平成27年7月に発生したフェリー火災事故を踏まえた国土交通省の船舶火災対策に関わる研究案件を受注。船舶火災消火の課題に対して様々な検証実験を行い、CAFS の有用性を認めていただきました。

国内フェリーへの CAFS 導入を通じ、陸上だけでなく、海上においても火災へのさらなる安全対策に貢献してまいります。

■18 UnitCAFS 特長・詳細：

https://www.morita-technos.com/other/cafs/unitsmart_outline.html

本件に関するお問合せ先

株式会社モリタホールディングス 広報室 担当：風間 TEL:03-6400-3485